

特集

木のおもちゃ



知育玩具がつくる大きな物語

かわいいデザインとやさしい手触り、そしてふんわりとしたヒノキの香りに心癒やされる木工インテリア。今回は多くの人から愛される知育玩具などの木工製品を中心に、障害者就労支援事業所「きちくろ」の取り組みを紹介します。

触れて、遊んで、飾りたくなる！

ヒノキ材で作られた、ゾウさんや野菜、動物シリーズのパズル、節句飾りや干支飾り……。どれもが愛らしく、手に取るとすべすべに磨かれた木肌の感触がやさしくて、指先から木の温もりが伝わってくるようです。間近で見ると驚くほど精巧につくり込まれており、インテリアとして部屋に飾って眺めていたくなるような魅力にあふれています。

これらの木工製品は、一般社団法人オケー・ファクトリーが運営する障害者就労支援事業所「Kichiro」

とは一般企業への就職に向けて作業訓練をするもので、それが困難で支援を受けながら作業訓練や生産活動をするのが就労継続支援(B型)です。市から製品や作業を受注する障害者就労施設は、きちくろを含め市内に10カ所あります。

ちなみに、きちくろという名前は、みんなが集まることができる場所にしたという思いを込めて、茨城弁の「来てくんろ」から命名したとのこと。現在の利用者さん(施設に登録し作業訓練を受けている人)は19歳から63歳と年齢層が幅広く、1日最大20人が通っています。

木工製品の幅を広げ質を高める

なぜ木工製品をつくり始めたのか、管理者の二本柳英子さんに聞きました。



管理者の二本柳さん

「他の事業所にはない特徴を持ちたいという思いがあって、たまたまここに道具と材料がそろっていたのでゼロから挑戦することにしました。まず木工アルファベットからスタートし、木材を削って出たチップも枕やポプリに詰めて無駄なく活用しました。そこから元保育士のスタッフを中

「Kuroro」でつくられたもの。障害者就労施設の製品は一般に授産品と呼ばれますが、その枠を超え、群を抜くクオリティの高さでたくさんの人に愛されています。「神栖市子育て応援ギフトカタログ」にも掲載されており、知育玩具は地元のパパやママに大好評。電熱ペンで赤ちゃんの名前や誕生日、出生時の体重などを刻印するサービスも喜ばれています。



神栖市子育て応援ギフトカタログでも大好評

障害者就労支援事業所とは？

神栖市では、障害者が自らの能力を発揮して社会参加できるよう、「地域とともに暮らせる安全で安心のあるまちづくり」を基本理念として『神栖市障がい者プラン』を策定しています。その中にさまざまな障害福祉サービスがあり、きちくろは就労移行支援および就労継続支援(B型)を行なう事業所として2015年に活動を開始しました。就労移行支援

心に知育玩具へと発展し、製品の種類も増えていきました。私たちが大切にしているのは、幅広い年代に楽しんでいただける製品づくり。知育玩具も子どもらしさを残しつつ、インテリアにもなるシンプルなデザインを心がけています」

苦労したのは、製品の良さをどう伝えるか。委託販売、フリーマーケットや個人作家主催のイベントへの参加、市場リサーチを兼ねたインターネット販売など、さまざまな取り組みを通して徐々に認知され、人気が高まってきました。

手間をかけて一から手づくり

二本柳さんの案内で工房を見学させてもらいました。開放感のあるおしゃれな雰囲気、あちこちに制作途中のパーツがあり、おもちゃ箱に迷い込んだような楽しい気分になります。

この日は、電動糸ノコでの成形、やすりがけ、色塗りなどが行なわれていました。誰もが自分の作業に集中し、黙々と手を動かしています。作業訓練という側面から、作業内容や割り当てについては利用者さん一人一人の特性に配慮しているとのこと。



利用者が集う工房「きちくろベース」



解放感のあるスペース。電動糸ノコで作業中



かわいい木工インテリア。奥には木工アルファベットが



ヒノキで作った車型収納ボックスを固定中